

ある捜索隊の船長がオーロラを見て残した「The world is on fire.」に、オーロラの専門家である著者は「こんな適切な表現が他にあってだろうか。」と記している。

著者自身、各地の地上から撮影されたたくさんのオーロラの写真や、オーロラを求めての 300 時間に及ぶ航空機観測から、オーロラが磁極を中心にした環状に現れることを突き止めた。探險家がルート工作していくように、それから何年もたってから、そのことが人工衛星により画像として捉えられることになる。

この著書が発行された 2006 年 12 月の約半年後

に IPCC による第 4 回目の報告書がまとまった。そこでは、雪氷圏の気候変動に関する観測結果や現在急速に発展中の気候モデルの結果も精力的にまとめられている。本書最終の第 7 章には、気候変動に関わる人々が陥りがちなことについて、科学者や報道についていくつかの例を使って意見が述べられている。事実と因果関係の確認は難しい。この難題は、そして日本にも密接に関係する北極圏は若い研究者を待っている。それが著者のメッセージであった。

(国立極地研究所 平沢尚彦)

(2008 年 7 月 23 日受付)

月刊「たくさんのふしぎ」(第 281 号)「こおり」

前野 紀一 文 齊藤 俊行 絵

福音館書店

雑誌 15923-08



本書は福音館書店から小学生向けに発行されている月刊誌である。福音館書店の HP には「本物の知る喜びが味わえる小学生の月刊誌 (小学校 3 年生から)」と紹介されており、毎号、さまざまな話題が取り上げられている。

本年の 8 月号には、本学会員の前野紀一氏により「こおり」が題材として取り上げられ、さまざまな「こおりのふしぎ」について、美しい絵とともに話が展開されている。

「冷凍庫の水をじっくり見たことはありますか？」で始まる最初部分では、氷が不透明なのは気泡の存在であることを観察から気づかせる内容となっている。また、気泡のない透明な水の作り方も詳しく書かれている。

「色のついた水、あなたは見たことがありますか？」から始まる次の部分では、さまざまなものを溶かす水に対して、不純物を取り込みにくい氷の特性が描かれている。今日、環境変動でも話題

に上がることの多い北極海の海水による塩分排出にも触れられており、低温高塩水が地球をめぐることなど、最新の話題についても取り上げられている。

この本の特徴はなんと言っても“絵”であろう。水分子の結びつきかたを“人間の手と足”で示し、“手と足が結びつく”ことにより結晶を表現したり、小学生にも理解しやすい、すばらしい絵が多く使われている。

このように、小学生にわかりやすく興味を引く内容であるだけでなく、大人でも十分楽しめ、科学のおもしろさが十分伝わるのではないと思われる。

「単なる“絵本”ではない」奥深い内容を持った一冊である。

(富山大学大学院理工学研究部(理学) 島田 互)

(2008 年 7 月 22 日受付)